写真1 山崎断層系安富断層と周辺の斜め空中写真

兵庫県宍粟郡安富町安志西方（本文第2図の範囲）を南西方に見下した写真。矢印の線を安富断層が通る。中央部付近の地形は現在工場が建設されて大幅に改変されている。中国自動車道が写真下部を斜めに通過している。1979年3月撮影。

写真2 典型的な左横ずれ谷と閉塞丘

北方を望む。断層線の所でこの小支谷（第2図の東端の谷）は小丘を上流側に迂回して東流する（断層線）谷に合流する。写真左端部の谷底部を斜断してトレンチA・Bが掘られた。現在ではこの地形は完全に消失してしまった。1969年9月撮影。

写真3 トレンチAを掘った直後の状態

この両側壁面を整形して地層および断層の観察を行った。南側を望む。この西側壁面は本文第3図上参照。

写真4 トレンチAの断層部分の様子

本文第4図中央下部の断層。A9からA16まで付近が写真で見られる。上下方向の幅数cmの条線帯が断層である。

写真5 トレンチCの西側壁面の状態

本文第5図の中央部から北側の状況。北西を望む。手鉤の部分がC4層で7世紀頃の土器片を多く含んでいた。すぐ北側にCF1断層が見られ、以深の古い地層も北側にみえる。

写真6 調査地付近の大規模地形改変

調査地はその後工事が進み、工場用地となっていたが、その途時に地質観察を詳しく行うことができた。東南東方向の断層延長部を望む。1980年11月撮影。

山崎断層系安富断層のトレンチ調査

Trenching Study for the Yasutomi Fault of the Yamasaki Fault System

兵庫県西部を北西から南東方向へ80kmに亘って連なる山崎断層系は近畿地方に密集して発達する活断層群の西縁に限っている。これは左ずれが卓越し、北東側の相対的隆起を伴っている。写真1・2には鞍部列から推定される断層線の位置で河谷や尾根の左ずれを示す系統的な屈曲がみられる。その断層線を横切って写真3に示すようなトレンチ調査溝を掘ったところ、写真4・5のような谷底堆積物を切断する断層が認められた。その最新の活動は868年播磨地震の可能性が大きい。この調査地付近は写真6に示すように、工場の建設が行われてきたので、地形・地質は大きく改変されてしまった。(岡田篤正・佃 為成撮影 Photos by A. OKADA and T. TSUKUDA)